

東京外かく環状道路についての陳情書

石原 伸晃 国土交通大臣殿

平成 15年 9月 29日

子供と環境を守る善福寺住民の会

青梅街道インターチェンジについて

6月27日の区長記者会見のとおり、杉並区はインターチェンジ建設について反対の意見表明をいたしました。地域住民としてはこれでひと安心と思ったのですが、その後、7月16日に発表された環境影響評価方法書によると、青梅街道インターチェンジは計画に含まれています。これでは地域住民としては心配でなりません。石原大臣におかれましては、ぜひともインターチェンジは建設しないと、意見表明をしていただきたくお願い申し上げます。

東京外かく環状道路について

この道路計画は当時の根本建設大臣の「凍結宣言」によって中断して現在にいたっております。石原東京都知事は「凍結」は解除されたと発言されましたが、副国土交通大臣は「凍結」解除はしていないと発言されています。石原大臣のお考えをお聞かせください。

石原都知事と副大臣の現地視察により、良好な住宅地に道路建設は無理という判断から大深度地下利用による道路建設が提案されました。しかし、地上が無理だから大深度地下と簡単に考えて良いものでしょうか。大深度地下に特有の問題点をご存知でしょうか。

「大深度地下利用の基本方針」、「大深度地下開発と地下環境」陶野郁雄著 鹿島出版会を熟読されるようお願い申し上げます。

一度、建設されてしまえば撤去するのもままならない大深度地下の問題です。次世代に負の遺産を残さないためにも、是非お考えください。

道路建設予定地は「凍結」ということで40年近くもその儘にされてきましたが、その間にもこれらの土地では空き地と住宅建設が繰り返されてまいりました。本当に東京外かく環状道路を建設する熱意があったのなら、これらの間に少しずつ用地を買い上げて、かなりの部分が買収済みとなっていたはずですが、その上で残りの土地の所有者に提供を求めれば、それは大きな説得力をもちます。そうした努力をせずに来た事は行政の怠慢といわれても致し方ないと思います。

やはり、道路は地上に建設するのが本来の姿ではないでしょうか。道路とは自動車が走行する部分だけでなく、その外側に十分な幅を取ってグリーンベルトを設けることによって公害の少ない正しい道路が出来るのではないのでしょうか。

石原大臣の御英断をお願い申し上げます。